

ポラリス

札幌社会保険総合病院 院外広報誌

第23号

2012年1月



- 新年のご挨拶
今こそ「人間愛」を考える
- 医療の現場から① ② ③ ④
- 寄贈された木額「獺祭魚書屋」について
- 第16回 調理技術勉強会
- こんにちは 医療連携・相談室です
- クリスマスの夕べ

ポラリスの由来

ポラリスは北極星を意味します。当院の前身である北辰病院の北辰もまた、ポラリスと同じ北極星を意味する言葉なのです。北極星のように、北国の中心で悠久に燦々と輝き続けたいという願いが込められているのです。題字は秦院長の直筆です。



URL <http://www.sapporo-shaho.jp/>

新年のご挨拶

今こそ「人間愛」を考える

院長 秦 温 信



あけましておめでとうございます。皆さまにおかれましてはさわやかな新年を迎えられたことと思います。昨年さまざまな課題に取り組み、一定の成果をあげることができましたのも、皆さまの暖かいご支援があったからに他なりません。心から感謝申し上げたいと思います。

昨年は、3月に発生した東日本大震災によって言語に絶する被害がもたらされました。この災害による死者は行方不明者を含めて2万人以上となる大惨事となりました。しかも、地震発生後、福島第一原子力発電所において、放射性物質が漏出する重大事故が発生し、旧ソ連（現ウクライナ）のチェルノブイリ原子力発電所事故（1986年）に匹敵する大事故となりました。被災地の復興には途方もない時間がかかりそうで、言葉もありません。

このような巨大地震は一定の確率で起こると言わざるをえないのですが、東北大学名誉教授岩田靖夫氏によると、「これが大災害になるかどうかは人間の対処いかんにかかっている。問題はこのような時にどう対処するか、という点に絞られる」と言うのです。また、その対処方法について同氏は「一言で言えば、人間が人間愛に基づく自律的な力を結集し、人間らしい世界を建設し、苦しみから善なる結果を産み出す、という他はないだろう」と述べています。さらに、「人間の“生”の本来の意味とは、人が人を愛すること、愛されること、助けること、助けられることである。生きるとは、人が愛の交わりの中に入ることである。このことが、この大震災によってはからずも明白になった。津波で家財産の一切を流され、肉親をも失った人々の苦しみと悲しみは、われわれの胸を締め付ける。それにも拘わらず、それらの人々が避難所でおにぎりを分け合い、励ましあい、生きる力を奮い立たせている姿は、われわれに“生”の根源の意味を教えているのではないかと。

当院の院是は「当病院は、人間愛と人権尊重を基本とした全人的医療をめざします」としています。この“人間愛”こそ、状況が困難になればなるほど重要性を増すのではと改めて思うのです。当院としてはこれまでと変わらず、道央圏で初めての地域支援病院としてさらに質が高くかつ安全な医療圏を目指し、いかなる困難があろうとも職員が一体となってあらゆる可能性を追求して行ければと願っています。

2012年が皆さんにとって新たな夢と希望に満ちた幸せな一年であるようお祈りいたします。





新しい糖尿病薬、インクレチン製剤について

糖尿病内科 一山芽衣

2009年から2010年にかけてインクレチン製剤が日本においても承認・発売されました。新しい作用機序をもつ糖尿病治療薬の登場は約10年ぶりであり、高い関心が寄せられています。インクレチンとは、小腸から放出される消化管ホルモンであり、小腸上部から分泌されるGLP-1と小腸下部から分泌されるGIPの2種類があり、消化管から栄養素が取り込まれると放出されインスリン分泌を促しDPP-4によってすばやく分解されます。

GLP-1は2型糖尿病患者へ投与すると膵β細胞を刺激してインスリンを分泌させα細胞からのグルカゴン分泌を抑制し血糖値を下げます。そのため、糖尿病治療薬として、DPP-4を阻害する薬剤と、内因性のインクレチンよりも分解されにくいGLP-1のアナログ製剤が開発されています。

インクレチン製剤は血糖値を低下させるだけでなくこれまでの糖尿病薬にはなかった利点や特徴が注目されています。

例えば①従来の糖尿病薬とは異なりインクレチン製剤は血糖依存性に作用するため低血糖を起こす危険性が低い。②中枢神経に作用し食欲を抑制するため体重維持・減少にも有効である。③膵β細胞の機能を保護する作用も示されている。④膵からのグルカゴン分泌を直接的に抑制するだけでなく、そのパラクリン分泌も抑制することにより、食後高血糖を抑制することが可能である等です。その他HbA1c値や血圧、LDL-コレステロールの低下作用も報告されています。

単独での使用だけでなく従来の経口血糖降下薬との併用などで糖尿病治療戦略の幅が大きく広がると期待されています。

慢性閉塞性肺疾患

呼吸器科 横尾慶紀



「COPD」という言葉を知っていますか？

慢性閉塞性肺疾患の略語のことで、当科疾患の代表格の一つです。

最近、和田アキ子がCOPD防止キャンペーンのCMを行うようになり、少しずつ認知度が上がってきましたが、一般的にはまだまだ認知度は低いかもしれません。簡単に説明すると、肺気腫・慢性気管支炎や一部の喘息などの呼吸器疾患が慢性的な増悪をたどり、呼吸機能検査にて基準を満たした疾患を総称してCOPDと言います。

基本的には、ほとんどが喫煙もしくは受動喫煙を介して発症するため、和田アキ子が禁煙キャンペーンに乗り出したわけです（和田アキ子も数年前までは毎日50本近く喫煙していて、肺気腫の診断の後に禁煙したようです）。

館ひろしをはじめとする石原軍団の禁煙治療CMも、COPDおよび肺癌の流行により、禁煙の必要性が社会的に高まっていることを示していると思われます。しかし、喫煙の健康被害については過去より伝えられてきていることすし、横文字ということもあってか、実感が湧きにくいのも事実です。WHO（世界保健機構）が発表している「世界における死亡順位予測」では2020年にはCOPDが世界の死亡原因の3位に食い込むことを予想しています。

そんなこともあってか、社会的な風潮として禁煙励行となっているわけです。

ちなみに、昨年夏休みに訪れたカルフォルニア州は公共施設・バー・レストランなどでの全面禁煙が法律化されており、スモーカーに全く遭遇しませんでした。

最近のワクチン変更点

小児科 部長 東 館 義 仁



インフルエンザワクチンは子供での接種量が国際基準まで増量になりました。昨年まではせっかくワクチンしても罹患する子がいたのですが、今年からはワクチン効果が高まり、多くの子が罹らないですむと期待されます。ただし、生後6ヵ月未満の子供は接種できません。

人パピローマウイルスワクチンには新製品が追加されました。供給量の関係で公費負担対象の中学生から高校2年生を優先して接種していましたが、現在は成人の方も接種可能となっています。平成24年度以降も公費負担が継続される予定ですが、対象年齢が変更になるかもしれません。

そして、11月にはロタウイルスワクチンが発売されました。ロタウイルス胃腸炎は乳幼児が罹る感染症で、世界中では1年間に50万人以上も亡くなっています。我が国で死亡することは希ですが、罹ると5日程度高熱や嘔吐、2週間程度の下痢や食不振が起こり得ます。1-2度罹ると免疫ができます。便を介して伝染し、便1滴に数万人を発病させる量のウイルスが含まれるので、流行期（冬から春先です）熱心に手洗いをして感染を防ぐことはできず、罹りたくなければワクチンするしかありません。

新しいワクチンは、生後6から24週に4週あけて2回飲むタイプです。生ワクチンなので、接種後4週間は他のワクチンが出来ません。同時期には、公費負担のワクチンだけでも5種類あり、同時接種しないと全てを実施することは困難です。

当院では、生後2ヵ月になったら直ぐにロタ+ヒブ+肺炎球菌、3月目はこの3個に三種混合、4月目は保健センターでBCG、5月目はヒブ+肺炎球菌+三種混合、6月目に三種混合とのスケジュールをお勧めしています。

海外では既に定期接種化されているB型肝炎ワクチンも出来れば一緒に。気になる値段ですが、大凡、ロタウイルスワクチンは2回で3万円、B型肝炎ワクチンは3回で1万5千円、人パピローマワクチンは3回で4万5千円です。

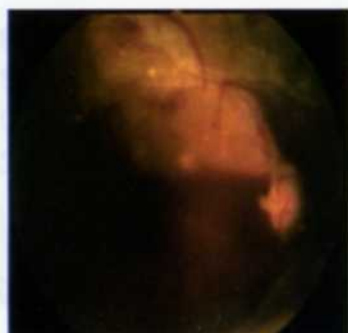
札幌社会保険総合病院の現状 (近況) について

眼科 部長 広 瀬 茂 樹



眼科の進歩は眼科医療機器の進化発展とともにあるといっても過言ではありません。眼科手術というと白内障手術が大半を占めることは言うまでもありませんが、当院でもここ数年医療機器の更新や新たな設備の導入が行われています。

昨年に引き続き平成24年1月下旬には、昨年発売された最新の硝子体手術装置が当院に導入されることと



になりました。この手術装置により増殖糖尿病網膜症、黄斑円孔、裂孔原性網膜剥離等今までは大学病院などごく限られた施設でしか行われていなかった疾患に対する治療を行うことが当院で可能となります(次ページ写真説明参照)。



前ページ左：増殖糖尿病網膜症の眼底写真。写真中心から下方にかけて網膜前出血、上方網膜血管に沿って線維性増殖膜が見られます。

前ページ中央、右：黄斑円孔の眼底写真。写真中央に丸くやや濃く見えるのが黄斑円孔で、その右側にあるのは光干渉断層計で黄斑円孔の断面を撮影したものです。

左：裂孔原性網膜剥離の眼底写真。

上方の網膜剥離及びその原因裂孔が見られます。

寄贈された木額「獺祭魚書屋」について

院長 秦 温信

木額どっさいぎょしょあく「獺祭魚書屋」(以下木額)は当院の前身である北辰病院の初代院長関場不二彦先生の書斎入り口に掲げられていたものですが、この木額が元札幌市医師会長の島田保久先生から11月7日当院に寄贈され、内科外来前の図書コーナー「北辰文庫」の一角に掲げられました。去る12月19日島田保久先生他多くの職員に出席していただき除幕式を行い、寄贈者である島田先生からは大変ご丁寧なご挨拶をいただきました。

この木額は島田先生秘蔵のもので、時価どのくらいするものか分からないものですので、寄贈していただけたらと思ってもみなかったものです。横123.2cm、縦30.2cm、厚さ3cmの木額で、右から左に「獺祭魚書屋」とあり、その左には「関場国手鑿正 蘭臺作 庚戌嘉平」と刻されています。庚戌嘉平とは、明治43年(1910)12月のことです。蘭臺については関場不二彦先生の稿本「百結衣上編」(関場修氏所蔵)に記述がみられます。すなわち、蘭臺とは中村蘭臺のことであり、安政3年(1856)の生まれで、通称稻吉、号を蘭香、香草居主人と称しました。著名な彫刻師・篆刻家で、大正4年(1915年)11月に没しています。

この木額を見ると、この「木額」の掲げられた書斎から「西医学東漸史話」をはじめ幾多の業績が生まれたことに思いをいたし、改めて不二彦の偉大さに叩頭するものです。

<参考>

どっさい
獺祭：カワウソ(獺)が自分のとった魚を並べること。人が物を供えて先祖を祭るのに似ているところからいう。転じて、詩文を作るとき、多くの参考書を周囲に広げておくこと。

寄贈日(2011年11月7日)：

関場不二彦先生の生誕145年の日



